京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き路を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年紀元二千五百七十年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行金一圓五十錢▲新報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所 京城新報社

編輯局私言　五洲生

▲東拓會社の組織變更とやら、謂はぬこそにては無之候、自餘官僚主義萬能でありながら、東拓を株主組織と爲したるが既に滑稽にも狼狽候、加之、重役とか取締役凡て是れ拓殖經營の敏腕家、成功期して疑ひ無かるべきに、豈に計らむや、從て行へば、從て破るの今日あらんぜは、なぞと考へる人は、恐らく有之間敷候、事業と申せば、下請の亦下請、コンミッション取りのみ多くして成果の擧らざる、知れ切つたことに候、一事が萬事、是れが半島唯一の泡沫會社とや申すべき。

▲泡沫會社といへば、商法修正案も屢々修正に修正を加へ、朝野一般の意見も容れ、纏まりたるやに聞及候、内容を申せば、茲に不盡候へ共、眼目といふは發起人即ち重役や取締役に重き責任を負はしむるに有之候、是れで多少は從來の大弊害も減退すべきかと存候具体的に申せば、發起人等が大法螺を吹き立てゝ、權利株などて一攫千金の仕事も出來ず、亦會社未成立の間に株主の拂込金を蹈著することも出來ないといふ次第に有之候。

▲我が半島に於ても、今少し起業熱昂まるべき筈なるに、今日は寂寞たるは如何の次第に候や、資本無き譯にも有之間敷、半島の實想は最早や内地に知れ渉り居るべきに、さりとは、目先きの見れぬ連中計りに候はずや、愼重の態度も斯ふなりては臆病とや可申、是れも當該官廳が拓殖なぞといふ鵺的の會社を作へて今日の結果を暴露したにも因るべく、何れにしても尸位素餐の譏を免れざるべく候。

▲記者の尤も私淑する、北雷田尻先生は、今茲還暦に當らるゝを以て朝野の名士擧つて先生の爲めに祝宴を張らるゝとかや、欣喜抃舞快心の事之れに不過候、申す迄も無く先生は當代理財學界の典據其の人格に於て學識に於て他に比すべき無きは、今記者の努々を俟たす候、先生が會計檢査院長の任に在る天の一方に光明を望むの感あり候、記者は先生が大藏省に入つて大臣の椅子を占めらるゝよりも、長へに現職に在りて我が國財界の監視者たり、羅針盤たらんことを切望して已まず候、冀くば政界の偉人大隈伯と共に龜鶴の壽を全ふせられんことを。

●鑛山廢業の續出

昨今新たに採掘出願するもの非常に增加するの状勢は屢々本通信の記載する處なるが斯く一方に於て採鑛許願の增加と共に從來許可を得たるものゝ廢業を屆出するもの又頗る多く近日の官報には殆んど毎號に掲示されつゝあるが右は四十一二年頃鑛業熱の流行につれ單に權利を獲得し置けば將來何かになるむとの野望より別に深意無くして出願したりし者が許可に從つて毎年税金の納入を負擔せざる可からざる次第なれば徒らに税金の損害を忍びて權利の物にするを待たんより此際廢業するに如かずとの方針よりかく續々廢業を見るに至るものにして今後尙ほ增加すべくかくして朝鮮に於ける鑛山も幾分眞正なる鑛業家によりて經營さるゝに至らむと某當局者は語り居れり

●各地の氣象状況

近頃朝鮮各道は何れも晴天續きにて氣壓は七百六十ミリメートルより七百七十ミリメートルの間に在り各地を通じて大したる差異無く温度の如きも木浦、釜山、大邱地方を除きては最高温度の場合に於ても攝氏零度以下に降らざるは無かりき今去る九日の三寒中各地の温度を示せば左の如し

地名	最高温度	最低温度
京城	零下四、七	零下一二、八
仁川	同六、〇	同一一、六
木浦	同三、一	同一、七
釜山	同二、三	同四、二
大邱	同〇、四	同六、七
平壤	零下一〇、四	同一八、五
龍岩浦	同一一、八	同一九、二
元山	同三、五	同一二、三
城津	同七、四	同一二、七

●輸出商談と鮮米

內地米は一時低落の傾向を呈したる當時は早くも米價の前途を悲觀し十四圓以上の價格を保つ能はざるものゝ如く豫想され隨つて歐洲輸出談も追々直幅接近し多數の約定行はれたる如く傳へられしも事實は依然として行惱みの裡にあり經たる商談を見るに至らざりしが其後米價は再び强硬の足取りを示し現今の状勢に依る時は到底十四圓以下に低落する如きことなき状態となれるより內商側にては商談に應ぜんとせず外商館も亦當地の形勢に鑑み觀望の態度を取れるより自然閑散の姿となり近時新たに約定を開始せるものなき次第なるも朝鮮米は其後絶ゆる間なく商談行はれ現に最近馬山二等米にて五圓二十五錢見當を歐洲向き五百噸許り某手筋にれいて商談中のものあるなど內地米の不引合は軈て朝鮮米の需用を增加するに至るやも圖られず旁同米の前途は漸く活動の期に近かんとしつゝあり



文苑

●失敬　九南生

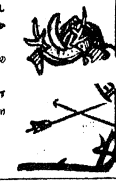
人の家に朝行けば「御早う」と云ふ晝行けば「今日は」と云ひ夜行けば「今晩は」と云ひ歸る時は「左樣なら」と云ひ過を爲せる時は「御勸辨」など云つて其時と塲合とによつて挨拶を異にするが世間一般である。獨り學生は之等の場合に通ずる唯一の言がある「失敬」即ち之である「失敬」の二字はかく使用さるゝ範

和歌募集

勅題「寒月照梅花」　選者　九皐館去留

何首にても隨意、用紙用箋類も又御隨意の事、締切期限十二月廿五日、發表は四十四年一月元旦の本紙上を以てす、同好の士奮つて投歌せられんことを希ふ

十二月二日　本社編輯局



山中鹿之助　第卅九回　西尾麟慶演

鹿之助は老婆の物語を聞き不憫に思ひ、見れば大分力もある樣だから武家奉公を致させば必ず老婆一人位ゐは過せるだらう　婆「夫は有難ふ御座ひます、武家奉公を致したいと思ひますが、手蔓と云ふものが御座ひません　鹿「然らば此方が推擧を致してやらう、有難ふ存じます、夫は此の上もない仕合せ、れ草履をつかんでなりとも此山中に居るより勝る、何うかれ使ひなさつて下さいまし　鹿「然れば三年を經過して、中國尼子へ尋ねて來れ、斯く申す某は山中鹿之助と申するものである　婆「誠に有難ふ存じますと、茲で主從の約束を致しまする、此の老婆の孫と云ふのは山名氏實の家臣大谷九衛門と申するものゝ孫にして猪之助と申するもの、鹿之助は此の見ぐるしき處で一夜を明かし、翌日に相成りますると天麗にいたして誠に快晴、愈此處を出立に及びまするると老婆は涙ながらに別れを告げ　婆「コレ猪之助れ前は旦那樣の御案内をして街道へ出るまでれ送り申しな、と老婢が云ふと鹿之助は金子を取り出して　鹿「是は心ばかりである、老婆其方へ遣はす　婆「勿体ない、何う仕りまして箇樣なものを戴きまして……孫が命を助けていたゞくのみならず、後々はた召使下さいますとの事、其旦那樣に箇樣な物をいたゞいては相濟みません、御返上をいたします　鹿「イヤ左うではない、ホンの心ばかり主從の約束をして何か取せたいが、旅中の事で何も無い、夫を取て置け、老婆壯健で居れよ……」と夫より猪之助を連れて此處を立出る老婆は涙ながらに之を見送ります、軈て十四五丁來ると谷川が在ります　猪「旦那樣、此の川は餘り深くはありませんが流れが强ふ御座ひます此の丸木橋を渡るので御座ひます、昔が此の通り附て居りまして、木も朽て居りまするが、大木で御座ひますから人間の五人や十人乘ても折はいたしませんが、辷ると云ふと谷へ落ますれば危ふ御座ひます、た手を取りませう、荷物は皆な私が持ます」と云ふ聲て此谷を渡りますと、葉表葉裏重なつて晝尙ほ暗くいたして、太陽の光りも見へない位ゐで御座ひます、之を昇つて參らうと云ふ時に當りゴー〳〵と云ふ音が聞ゑまする　猪「ア、旦那樣れ危ふ御座ひます、其木へれ登りなさいませと云ふ何を致したかと見てある內にゴー〳〵と云ふと牙にて木茅を別けよ此方を見かけ風を卷て來るものがある何事なりと見てある內に、猪之助は大手を廣げて待受ると向ふより來つたものは八尺もあらうといふ猪で御座ひます……猪もいろ〳〵御座ひますが、クラ猪なぞと云ふものは、一丈二三尺位ゐ御座ひます、或は猪、青猪と一通りでは御座ひません、一番怖しいのが此のクラ猪で御座ひます。今此處へ荒來つたのは一發打れましたものと見へ此處へとんで參ります、其處ある猪は死を寧を極めて待て居りますと、物狂ひに猪之助へ突てかゝるをヤッと云ふ一聲と共に猪の頭上を甚かに打ました、猪は動と掛斗打て倒れる奴を起しもせず、飛びかゝつて續け打、とう〳〵猪を其處へ打斃して了ふ、之を見て居りました鹿之助大ひに驚き、如何になるやと思ふ內藤蔓を取て四足を緊と縛り塵打拂つて　猪「旦那樣、是が出れば貧乏は致しません、何う云ふものか此頃は山の獵を幾ましして擒ませんかツた、猪に出會さへすれば先づ〳〵今年中の籠城は出來ます、決して恐アと私位ゐの生活には不自由は致しません　鹿「ム、其方は大方である、獵師を致するか　猪「ハイ獵を致しますが何も道具が御座ひませんから、常に山へ出まして猪に出會さへ致しますれば、拳固で打殺しますが、何うも此節は好い塩梅に出會致しません、之を一匹賣りますれば三月や半年は二で安心して食られます、何うも大ぶ大きな猪で、世には大きな猪もあればあるもので御座ひます……之を聲て鹿之助大ひに感心を致しました　鹿「其方三年の後中國尼子へ尋ねて來れと、其時の證據に笄割て割符を與へました



KOREAN PENINSULA AS VIEWED BY A FOREIGNER

(續)外人の視たる半島(五)

一外人記述

▲前回に於て余は總督たる寺內將軍が余等外人に向つて新御馳走を振舞ふべく望んだ、而して其新御馳走なるものが半島のデベロプメントなることを述べた。尤も今日に於て將軍に向かつて新御馳走を望むものは獨り余等外人のみでなく、日本の上下乃ち上はヒスマヂアスチーから下はリキショーマンまで同じからんと思ふ。▲半島の開發夫は困難の仕事だ、幾百年間忘れられたる國土民人をモデレナイズするのは至極困難の仕事だ、此困難の仕事は埃及を改造するよりもコンゴーの弊政を改革するよりも其困難の程度に於て大に優つて居るのだ、斯る困難の仕事の衝に當つて居るのが寺內將軍なのだ、將軍果して半島開發の大業を成すの成算ありや否。▲凡そ新領土に臨むに二つの統治法がある[illegible]衣食足りて禮節を知る、新附の民は自然に治まるのだ。[illegible]▲寺內將軍の半島に臨むや[illegible]▲臺灣の統治は兒玉將軍とドクトル後藤とが心血を注いだ一世の仕事だ、臺灣の財政は樟腦、阿片其他の政府專賣事業より生ずる利益に因つて獨立した、日本政府と其國民とは兒玉將軍とドクトル後藤との功績を賞した、ドクトルは其功績により一躍してバロンとなつた、併し、併し其功績の眞價はドウか。▲獨逸で人造樟腦が出來た、今や幸にも天然樟腦に比して生產費が高い、併し獨逸人は工藝科學上の魔神だ、彼等はイツ何時人造樟腦に成効するやも知れぬ、サテ此噂が臺灣政府に傳はる、臺灣政府はビクビクする。▲阿片專賣は素々人道本位で臺灣政府が臺灣住民の健康を顧慮してヤツケたのだ、さればこそ人道主義の權化故伊藤公の如きも其專賣を是認したのである、面るに現狀は如何、阿片吸煙者は臺灣財政の獨立より離すべからざるものとなつた。▲嗚呼臺灣の統治其が成効は財政の獨立に因つて證されたものと一時一般に信じられた、併し今日に於ては樟腦や阿片の專賣に因つて得られたる獨立の甚だ不確定なることが判つた、一代の才人バロンゴトウは畢竟之れ魔術師のみと言はるゝに到つた。▲記者は無論も横途に入つて餘りに長く臺灣の事を書いた、讀者諸君には甚だ迷惑であつた、併し意のあるところは汲取つて欲しいものだ。▲半島の統治、其が目的は何物にあるか、人は云ふ半島民族の制御、人は云ふ半島財政の獨立、併し記者を以てすれば民族の制御、財政の獨立の如きは抑も末で眞の目的は他に大にありだ、其何物たるかは次回に於て説かん。

▲皇族財産令

東京電報(十七日) 昨十六日皇族會議に附し諮詢されたる皇族財産令は全部可決し二三日中に發表せらるべし

▲豫算案發表

明四十四年度豫算案は發表せられたり

▲現在國債高

大藏省最近の調査によれば現在國債額は內國債十七億[illegible]一萬千五百五十圓外國債十四億七百二十四万五千二百[illegible]圓にして內國債償還額內國債十一億[illegible]萬三千五百二十九圓外國債[illegible]四千七百二十一萬七千[illegible]なりと

▲政友會治水調査會

政友會治水調査會は昨日同會本部にて開會[illegible]原、吉植の兩主查粕屋[illegible]幹事以下各委員列席前回[illegible]る森林行政と治水に關[illegible]議し全部決定したりと

▲道路協會

曩に脱稿したる道路法案は陸軍大藏兩省の反對を買ひ內務省にて修正中なるが漸く再び脱稿して目下道路協會に於て再提出の準備中なりしが今十七日內相官邸に於て同協會の協議會を開けり

▲鐵道議案會議

十五日以來開會中の鐵道會議議案は鐵道法中改正の件△建築及改正費豫算變更の件△上京京成信登堺鐵道布敷の件、武庫、大坂、坂神電鐵布設其他等なりと

▲川村大將の參內

過般歐州より歸朝したる東京衞戍總督川村大將は今十七日午前十時三十分參內御座所に於て拜謁仰付られ歐州各國に於ける衞戍の現況に付き奏上する所ありたりと

●窮せる代理業者

昨紙訴訟代理業者の恐慌と題し今回辯護士規則發[illegible]認されざる事となりたるより當業者は頗みに大恐慌を來し直に集會を開き其後國報に付き協議し居る旨を報道せしが昨日午後當業者の總代より其筋に向[illegible]る代理業は依然開業差支なきや否を伺ひ出たるよし

▲鑛産物の増加

本年度に於ける日本內地の各鑛坑より產出する重要鑛物は石炭を除くの外何れも昨年に比し產額增加せりと

▲感化救濟事業

感化救濟事業は內務當局の鋭意努力しつゝあるが今回全國百二十七箇の既設感化院中成績優良にして他の模範たるべきに對しては本年度より約二万圓を獎勵補助として支給すべく來年度よりは一層擴張を計る由

▲六號潜航艇竣工

六號潜航艇は過日來修理中の處本日全く竣工したり

▲巴西の叛亂兵

伯林電報(十七日) リオデジヤネロ港に於ける叛亂の水兵は戰艦ミナスゼラス同サオポーロ、同レオドロ、同バヒア號乘組の水兵にして何れも引致せられ禁錮に處せられたり

雜錄

●總督の國境巡視

來る廿四日を以て歸任すべき寺內總督は來年正月十日頃より義州安東縣及び鴨綠江地方の國境巡視することに內定し其下檢分として第二師團司令部より某副官出張したりと

●朝鮮赤十字の組織

本社朝鮮本部 朝鮮總督府官制實施に伴ひ日本赤十字社朝鮮本部組織の改正を要するにより山縣總長は曩に寺內總督の承認を經て朝鮮本部規則改正案を松方本社長に提出したるが今般本社常議員の決議を經て發表實施したり同規則は全文十五ヶ條より成るものにして其の內容は朝鮮總督府所在地に本部を置き各道に支部を置き委員部を設け本部には總裁より上奏の上囑託せらるゝ總長一名總裁又は社長の囑託副總長評議員管事會計監事務員若干名支部には總裁社長又は總長囑託の支部長一名協議委員若干名委員部には同上囑託の委員長一名委員副長贊助委員若干名を置きて社業の發展を期する事と爲したり其の管掌の事項は左の如し

一、本社の主義を普及せしめ有志者を獎勵誘導して社業の擴張を圖る事
二、社員の入退其の他當動に關する手續を爲す事
三、社員名簿を備へて社員籍を明にする事
四、年醵金其他の收入金を收集する事
五、寄附金及同物品受領保管する事
六、會計を處理する事
七、日本赤十字社篤志者看護婦人會支部を監督する事
八、社長の承認を經て患者救療又は天災地變の救護に從事する事

●內田良平氏來城

內田良平氏十六日來城したるが約一週間滯在すべしと云

●辭令(十七日[illegible])

補公州地方裁判所判事 河野曉
補大邱地方裁判所判事 宮脇梅吉
補京城區裁判所判事(十級俸) [illegible]
總督府技師 [illegible]
休職を命ず

●清公使の動靜

十七日新義州出發平壤に引返し一泊し翌十八日午後の列車にて鎭南浦を視察し十九日滯在二十日午前發列車にて同地出發歸城の途に就かるゝ筈

●朝鮮人問題

慈山 慈山廳管下朝鮮人退去問題は曩に奉天に於て協定せし太民屯朝鮮人事件と全く別問題として目下尚は懸案中に屬せるが結局契約年限間は退去を强制する能はざると決すべき模樣なりと傳へらる

●北滿のペスト

滿州里 哈爾賓附近のペスト漸次終滅せんとするに引代へ齊々哈爾附近は益々猖獗を極め昨今日々の新患者十數名を下らず傳染頗る猛威を逞うしつゝあるも清國官民は不關焉と澄し込み一向に豫防方法を講せず避病院なども尚更設立する模樣もなく檢疫さへ行はず放任し置くより恐るべき病毒は彌が上にも蔓延しつゝあるなり爲に同地露亞銀行支店は休業し日露兩國領事館は城外に移轉避難し已むなく單獨豫防に努めつゝあり無智の人民は日々疫魔の犧牲となりて斃れつゝあり其狀極めて慘憺たる由

●在滿洲各領事館

在滿洲の各領事館は破損甚しく外務省は來年度豫算に修繕又は改築費を要求せるも全部削除されたれば費用の許す限り小修繕を施こすか又は相當の他に家を借換ふる筈なりと云ふ

●韓銀當期の營業成績

韓國銀行本年下半期の營業成績は頗る好良にして殆んど政府の補給を仰がずも利益の配當に何等の支障なきまで發展せりと云ふ喜ぶべき事なり

●韓銀の砂金買收額

平壤 韓銀支店に於て取扱ひたる十一月中砂金買收額は四十七貫二百五十七匁八厘この價格十七万七千四百二十八圓五十九錢にして本月に入りても已に約二十貫九万餘圓を買收したれば月末には優に四十貫に達すべし而して同店本年の買收額は上半季の百八十六貫餘に下半季の二百八十餘貫を加へて四百七八十貫に上るべく之れを四十一年度の百六十三貫に比すれば二倍又は四十二年度の二百二十三貫に比すれば三倍に當れるを見る可しさなり

●平北收繭の好況

平北 安北道の養蠶及び收繭に關し同道よりの報告に依れば本年は例年より非常の好成績を擧げ養蠶に於ける養蠶者は一萬○三百三十戶にして其總收繭は二千百七十三石餘に達し居れりと之れを昨年に比する時は飼育者の戶數に於て五百十七戶を增し收繭に於て約七百石の增收を示し居れり尚右收繭中自家用に供給せるもの一千八百三十七石にして他に販路を得て賣却せるもの約三百三十五石餘なりといふが成繭賣却地の主なるものは泰川郡を始めとし平壤、博川、龜城、寧邊、熙川、其他滿州地方なりといへり蓋し斯くの如く多數の飼育者を出し且つ斯程の收繭ありしは實に稀有のことなり

私人

▲吉田豐次郎(關東都督府事務官)十六日入京流尾旅館投宿
▲關太郎(大每社員)同上

●大連仁川間旅客激增

過日安奉線に於て滊車轉覆して多數の重輕傷を出し又結氷の爲め大連安東縣の航路杜絕せるに付き滿洲より渡鮮する向きは此危險と不便を避くるより一に仁川航路に由るの傾向を生じ是れと同時に滿洲昨今の不景氣に打負けて朝鮮に流込むもの頻りに增加せるとにより大連仁川間の旅客は頓に激增を來せりと

●大邱と土地購入者

大邱方面に併合後土地購入者の入込む者多く彼の東拓の買收も之が爲め多少の妨げを受けし狀態なるが是等內地人は年末には多分引揚ぐると思ひの外却て季節を付込て渡來する者頻々にて各旅館は一二組の土地買收者宿せざるなくその他同縣人または親族朋友の家に寄宿して日々地方に出向く者頗る多しと

●平壤の年末狀況

一般商況は年末に迫りたるを以て稍々活氣を呈し來りたる砂糖燐寸メリケン粉等に至ては先月より優に四割方賣行增加したる由なりされど金巾綿等は賣行頓に澁く捗々しからざるも來月に入れば鮮人の節季に際し居る爲め諸雜貨共賣行增加すべしと云ふ

●鴨綠江出入船舶

去月中に船舶の鴨綠水路を出入したるものは左の如くなりと云ふ

國籍	出船の部 艘數	出船の部 總噸數	入船の部 艘數	入船の部 總噸數
日本	九	二、六六四	九	二、五三六
佛國	一	一、一二〇	一	一、一二〇
計	一〇	三、七八四	一〇	三、六五六

因に十一月十五日以後鴨綠江碇留の浮標は全部之を撤去せしを以て同日以後船舶の出入は東水道にありては多獅島錨地、西水道にありては大東溝錨地に止るものとす故に右船舶の水路嚮導は十五日以前に爲したるものなり

●鮮米と貿易組合

移入朝鮮米に對する大坂堂島米穀取引所の定期賣買計畫に關し頃日同取引所は特に同地の朝鮮貿易同業組合に對して調査を囑託せしを以て同組合は此れに應じ參考上の資料を蒐集しつゝある由而して同組合は往年移入朝鮮米を以て同取引所の賣買に附するの必要を感じ一時自から進んで調査する所あり結了後は一切の書類を取纏めて同取引所へ提出し定期賣買開始を建議せんとしたれども以來事情ありて其儘今日に及びし折柄今回却て同取引所が如上の計畫を立つるに至りしは全く同組合の素志に適へりと爲し勞々十分の調査を遂ぐる筈なりと尤も內地への移入年額は先づ約五十萬石にして其大半は大坂への移入に屬するものなる由

▲三浦快哉(憲兵大尉) 同山本へ
▲松井民之助(能樂雜誌社理事) 同釜山
▲山岡義三郎(釜山稅關長) 同上
▲天野久三郎(鎭南浦同上) 同上
▲大谷信夫(仁川判事) 同仁川へ

▲仁川港の船舶出入▼

▲隅田川丸 十八日大坂より入港

●鮮海漁業協議

長崎、福岡、熊本、佐賀四縣聯合鮮海漁業權及び出漁上に關する協議會を十六日午前十時より佐賀縣廳內に於て開會す

●歲末の商品停滯

朝鮮人は陰月を以て歲事となすを例とするが本年は併合の結果內地人と同樣に同月を以て歲暮をなさんとする者尠からず從つて昨今朝鮮人向の商品は賣行良く內地人側商況の活氣に伴ひ朝鮮人側の商況も頗る活氣を添へ來たるが之に反して內地人側に於ては歲暮を當て込みて仕入たる商品は憲兵警察官側に歲暮の贈答を廢止したる爲め一般官吏も之に倣ふ者多からんとする傾きありて大打擊を受けたるが如し尤も二十日過ぎに到らば或は景氣を盛返へすやも知れざれども例年の今頃に比すれば歲末當込の商品は殆んど停滯せる有樣なりと云ふ

●仁川商業會議所

仁川商業會議所役員會を同所樓上にて十七日午後一時開會四十三年度收支決算報告の件を決議せし由なり

●仁川の名刺交換

例年の通り一月一日仁川俱樂部にて開會する由贊成者は民團役所內發起人へ申込むべしと

●仁川の兩婦人會

仁川篤志看護婦人會及愛國婦人會にては久水、加藤、宮木の各夫人發起となり一月五日仁川府廳樓上に於て名刺交換會を開き同時に四十三年度收支決算の報告をなすとの事

●米婦人と救貧金

當地在留の米國基督敎宣敎師婦人某は昨日渡邊高等法院長を通じて今回歸國に際し其紀念として金五十圓を民團立學校生徒中の貧者に賑恤すべく右兒童の取調方を民團に依囑し來れるより掛員は早速學校長に取調を托したるところ兒童の家兄中月謝の滯納者なきにあらざれど全く貧者細民と認むべきもの一人もあらずとの報告に本日民長より其旨渡邊法院長に回答し尚は添へて民團學校方面は右の次第であれど若し民團敎育費に寄附さるゝ事なれば喜んで受納すべく申送れりと云ふ

▲灘江丸 同 同
▲日高丸 同 芝罘へ向出港
▲大有丸 同 大坂へ向出港
▲[illegible]丸 同 芝罘へ向出港

▲京城手形交換高▼

十二月十七日	金高	枚數
	二一四、四六〇、四[illegible]	四二四

鍾路軌道問題に付

鍾路住辯護士 岡田榮氏談

鍾路通り電車の軌道を今回改築と共に之を從來の如く片側に偏敷するか或は中央に敷設するかとは目下官民間の一問題となり居るところなるが現在鍾路通りに事務所を有する岡田辯護士に就き本問題に關する氏の意見を質せしに氏の答は左の如くなりし

所謂軌道問題とは所謂中央論と偏設論とで有ませうが自分は右に付自分が現在鍾路通りに住するの故を以て實驗上から感ずるところを話致します、まづ現在の如く軌道を街路も片側に偏在せしむることは市街の體裁から云ふても面白くありません、何人も知る如く、鍾路通りは南大門通りよりは路幅も廣いのでありますから改築の際には之を中央に敷くのが至當だと思ます、過日の貴紙にありました通り現在軌道の敷かれてある即ち私共の住んで居る側は各者家を始め我々共まで常に出入の危險と不便と亦夫れに雨水と塵埃との害を蒙りつゝあるのであります ソレから現在の如く片側に軌道があれば從つて電柱も片側にのみ建らるる譯で之等も體裁上は勿論危險と不便とを住民に向つて與ふる譯でありますが故に色々の點から私はドウしても中央敷設を至當として贊成するのであります云々

●經濟協會例會

來る二十二日京城ホテルに於て例會開催し中村農務局長の農業に關する講話ある筈なり尙ほ中村局長は席上農業に關する知識に就き會員の質問に答ふべしと

●佐々木唯一氏東上

東亞煙草會社出張所の同氏は十七日總會列席の爲め東上せり

●平壤の司法官會議

平壤控訴院にては來る一月九日より十一日まで三日間事務打合せの爲め管內地方裁判所長檢事正を召集し會議を開くべしと云ふ

●釜山の判檢事會議

釜山地方裁判所にては十七日より管內各地區裁判所判檢事を召集し事務打合會を開きたり

●菱谷檢事の送別會

元京城地方裁判所菱谷檢事は今回京地方裁判所檢事に榮轉したるが今十七日午後五時より司法部各高等官裁判所各高等官は同氏の爲に京城ホテルに送別の宴を開く

▲相場電報 (十七日)

▲大阪期米(明治町西村支店着電)(十六日)

▲前場十二月止十四圓五十六錢▲一月止五十九錢▲二月止九十四錢▲後場十二月寄十四圓五十六錢▲止不明▲一月寄五十四錢▲止五十四錢▲二月寄九十二錢▲止九十錢

●同(十七日)前場十二月寄十四圓四十五錢▲一月寄五十四錢▲二月寄九十錢

▲仁川米豆取引(十六日)

▲後場十二、一月寄出來不申▲二月寄九圓四十五錢▲最高九十一錢▲最低四十五錢▲止四十七錢

●同(十七日)前場十二、一月寄出來不申▲二月寄九圓四十八錢▲最高四十八錢▲最低四十六錢▲止四十七錢

銘柄		(前日後場)	(當日前場)
▲神戶	寄	三七、八〇	出來不申
追錢	引	三七、八〇	三七、八〇
▲京坂	同	五九、五〇	五九、七〇
電鐵	同	五九、五〇	五九、七〇
▲鐘淵	同	一〇四、五〇	一〇四、七〇
紡績	同	一〇四、五〇	一〇四、五〇
▲日本	同	九七、八〇	九七、八〇
郵船	同	出來不申	出來不申
▲東京	同	一三一、三〇	一三一、八〇
株新	同	一三一、二〇	一三一、三〇
▲大坂	同	一四二、一〇	一四二、〇〇
株式	同	一四二、一〇	一四一、八〇
▲同直	同	一四〇、七〇	一四〇、七〇
取引	同	一四〇、五〇	一四〇、五〇

●取消

貴紙十七日第二面に老生が京城民團議員候補希望として運動致し居候如き記事拜見候處老生は平に其の希望なきのみならず不幸にして而く閑散ならず該記事には聊かれつ玉け申候間右御取消被下度如斯申入候匆々

十二月十七日夜 近藤佐五郎

京城新報社御中

▲治外法權▼

民團も吾人の主張が貫徹したか愈存續に極まつたらしい、併し勿論名稱は變らう、帝國の領土內に居留民團ではオカシイからね▲扨民團が存續と決定して茲に發表されたのが民團議員改選の事だ、民團議員何と名稱が變つても自治體が存續する限り、一日もなくてはならぬ、總督府が後れながらも改選を發表したのは當然の事だ▲總督府令によると民團議員の選擧は來る一月の三十一日だ、サテ數へて見るとさあ五十日足らずだ、適莫議員候補の面々はハヤ運動を始めた▲議員の撰擧に運動の附物なことは洋の東西同じ事だ、民團議員だから、國會議員だからと云つてソコに差別はない、ツマリ一市の市政に參與するも將た一國の國政に參與するも其價値は同じ事だ▲トコで茲に考へねばならぬ事は運動の方法だ、幾ら運動が附物だと云つたからつて宴會だとか請托だとか下劣な方法は避けなければならぬ▲聞く某々等は候補に立たんが爲めに目下自家の屬する某々縣人會へ後援を賴んだソウだ、記者の考を以てすれば此ヤリ方は縣人根性を市政に混する面白からぬ事でドウしても排斥物だと思ふ▲ソレから最後に言はねばならぬ事は京城龍山に就てだ、今の京龍は同一民團で何事も一ツにやらねばならぬ、從つて議員候補推選の如きも共通にせねばならぬ、而るを狹量の人は京城は京城龍山は龍山と候補者を立てゝ爭はんとして居る、斯の如くんば折角の合併も何等好果を收めず、將來共に市政の融和を欠いて兩方の不利益となるのだ

●窮せる代理業者　昨紙訴訟代[illegible]認されざる事となりたるより當業者は頗み氏大恐慌を來し直に集會を開き其後圖策に付き協議し居る旨を報道せしが昨日午後[illegible]の總代より其筋に向ひ右は[illegible]開業に限り從來[illegible]認されなる代理業は依然開業差支なきや否を伺ひ出たるよし

●内田良平氏來城　内田良平氏十六日來城したるが約一週間滯在すべしと云

●辭令（十六日附）
公州地方裁判所判事　河野曉
補大邱地方裁判所判事　宮脇梅吉

補京城區裁判所判事(十級俸)
總督府技師　[illegible]一
休職を命ず

公人私人

▲吉田豐次郎(關東都督府事務官)十六日入京浦尾旅館投宿
▲關太郎(大每社員)同上
▲三浦快哉(憲兵大尉)同山本へ
▲松井民之助(能樂雜誌社理事)同釜山
▲山岡義三郎(釜山稅關長)同上
▲天野[illegible]三郎(鎭南浦)同上
▲大谷信夫(仁川判事)同仁川へ

▲仁川港の船舶出入▼

▲隅田川丸　十八日大坂より入港
▲漢江丸　同　同
▲日高丸　同　芝罘へ向出港
▲大有丸　同　大坂へ向出港
▲穎明丸　同　芝罘へ向出港

▲京城手形交換高▼

十二月十七日　金高　二一四、四六〇、四九　枚數　四二四



活動寫眞　覆面子

はしがき　覆面しての武者振り勇ましく活動寫眞の技師と早變りの當番、淺草奧山に人氣を集めた暗黑靈裡、柔き乙女の匂ひには明治式の丹次郎も出づべく、時鳥の浪子さんには御瞳をぬらし玉ふ姫君もれわすべく、時代物の大喝物、高田の馬場の仇討にはあつぱれ武士と喜ぶ小國民もあるべく、こゝ京城の東西南北、開け放ちたる大門の夜の帳、朝の幕、一だひチョンと木の頭、切つて落とせば奧山ところか世界の活舞臺、活動寫眞の早技は皆樣のれ目にパッと映ればさあた笑ひ召さるかれ怒り召さるか、そは讀者の御勝手として代は讀んでのれ戻り決して頂戴仕らず、緩々御覽くださいと申す。

朝霧は禰衡を包んで夜は未だ明け切らない午前六時、がばと飛び起きて外套襟深に通りべと出た、電車の音は聞へない、牛乳配達の若者一人は寒風を衝て東へと走る、薄く空中樓閣を畫いた南大門は寂寞の天地に龍宮を現出したかのやう、門を出れば電柱の三ツ星を氣はぱつと消へた。

早起きの店

は、つい先きの左傍の○屋と云ふ雜貨店である、主人は寒むさうに掃除して居る、痱犬はもや己が職務の靈溜めさりを始めて來掛る鮮人の鬚は白泡を吹いた。先映し出しまするは十八日南

大門驛の光景で御座い

鬼の如き事務官

▼山口慶一が事

紛糠三合持ちたらば男子婿養子の身分となる勿れとは男の方の言ひ草なるが夫れと變りて女の方では親兄弟を扶養するの腕のないものは婿となす可らずの金言に背いて末の見込があるからとか彼の人は秀才だとか云ふので婿養子をし後を樂む人も多いが是れは大した心得違ひ一寸先きは闇の世の中大根の種に牛蒡が混りて居るもあれば芽が出てからがオヤ此樣筈ではなかつたと口惜しがつても追附かぬものなり茲に紹介する一例は即ち夫れの一例にて所謂末の見込があるとかにて多額の學資を注ぎ込み一人前の月給取りに仕上げた結果是れから先に用はないと母娘諸共放り出されて此樣筈ではなかつたと知らぬ他國の温突に涙も凍る夜なく〳〵を泣いて明しつ暮してれる哀れな者の原籍は東京にて目下本町六丁目五十番戶山口さい(六十)同人長女あさ(?)と云ふものなり同人等こそは元法典調査局事務官補現**取調局事務官山口慶一**の妻なり母なりしも他に增花出來たより不人情なる慶一の爲めに離縁せられたる事の顛末を記せんに慶一は**本姓を木山**と呼び島根縣師範學校卒業後法律研究を志し苦學する決心にて東上し傳手を求めて下給公吏となりしが公務仲々繁多にして勉學の餘暇もなく困じ居たる時しも前記**山口さい**が現在は如何なる人にてもあれ行末永く我等親娘を見棄てぬ人あらば婿養子にせんものと心當りを探し居たるを知る人ありて慶一の殊勝な心掛を話したるに然る人ならば願ふてもなき幸いなりとて學資金は無論供給することとし長女あさに娶はしたるは明治三十三年八月十七日の事なりしなり當時れさいも猶行末を氣遣ひて一人前になつてから逃げ出されてはと云ふので同日付にて東京區裁判所管内**公證人**荒井善敬の役場に於て山口さい木山慶一及び適法の立會人立會の下に同役場第百八十號付を以て**養子縁組契約**を取結びたるが其の契約に曰く「山口さいと木山慶一は養子縁組をなしたるに就きてはさいは學資を投じ慶一の學資を支給し明治大學を卒業せしむる事慶一は山口さいの娘あさと結婚する事、更らに卒業の上職業に就きさい及びあさを扶養する事及び故なく離婚せざる事等の條件にて慶一在學中は勉强の都合に因り同居せずして他に下宿し學資金を受る事」と云ふにありき、而して在學三年にして卒業世話する人ありて司法省に月給二十圓にて就職し三十五圓に迄昇給したる**三十九年**慶一は元韓國法典調査局に採用せられ渡鮮せし當時既に妻女あさとの間に息子一人あり尚ほ姙娠丸ケ月分娩せしは女兒なりき然るに一方**渡鮮**したる慶一は給料の多なりしに慢心を起し早く既に**開進亭の藝妓桃太郎**に惚け多額の借財に首も回らず其の穴埋に苦心中れさいの方より渡鮮したしとの希望申來りしにぞ茲に惡計を案じ付き家財全部賣拂ひ渡鮮すべしとて京城は誠に結構なりなど申送りしに**養母及び妻**女れあさも共に勇み立ち渡鮮したるは四十一年の四月なりけるが間もなく**所持金を取上げると同時**に母親れさいに辛く當るにぞ四十二年中同人は名古屋市とやらなる親戚方に歸り居りしが其所も面白からぬに再び渡鮮せしが這回は妻女あさが重病に罹り母親附き添ひ內地の病院に入院することゝなりたり時恰かも慶一は咸鏡北道**鏡城に出張**を命ぜられ**出張中**同所南門外の某料理店の**酌婦玉**なるものと深き關係となり歸任の際同道し櫻井町邊の温突に圍ひ置きし事病癒ねて歸宅したる母妻の知る處となりて揉つた揉んだの末れ玉は歸國さすると詐り龍山の某所に圍ひ置きたる事又しても母娘の知る處となりしは本年十月中なりしが此の度は慶一**薄情者の本性を發揮**し遂に此の恩ある**妻女を離縁**せしは十一月下旬なりけるが不幸にも當時れあさは姙娠中にて本月四日女子分娩せしに付死兒の引取方を今は木山と姓を變へたる慶一に迫りたるも語を左右に托して引取らず爲めに前世如何なる罪業ありてか冷たき屍體を七日の間戶棚の隅に横へたるなりと鬼か人か



寒い職業（可愛がられた身のなる果てか闇にも憚る頰冠り）

●**娼妓の强姦呼ばり**　南部誠明坊大仁幌七十一統十戶蝸甫居金龍珠抱娼妓李京月(十七)が十六日漢城病院より歸途南大門外里門洞二十八統九戶朴泰俊(二十)が之を待ち受け待合愈致學方に引込み强姦せんとせしとて南部署に告訴せしに因り取調べたるに以前五六回買ひたる事ありて合意に出んとせしも此處は都合惡く自宅に來れと逃げし事判明せしに付說諭放還

●**萬引美人の處刑**　山口縣大島郡家室西方村二百二十六番地當時龍山柳町二丁目四番戶柳原とわ(十八)が京城南山町一丁目料理店櫻葉亭仲居に雇れ中仲居足立きく所有の金指輪一個(代十二圓)及藝妓石川はな所有の雪駄一足其他遊客の羽織外二點を竊取し及龍山京町大和湯入浴の際浴客の衣類二點を竊取したる事件は京城區裁判所に於て十七日懲役三ヶ月に處せらる

●**遺失二件**　仁川寺町二丁目渡邊桂二郎方岡田淸兵衛は十七日午前八時頃宮町大神宮に參詣に行き歸途宮町より沓洞を通行の際金十一圓餘と認印及衣類在中の縞財布を又た京町一丁目本所酒店々員吉田某は十六日午後二時頃自宅より穴門迄通行の際十八銀行の貯金通帳二冊此の金額十三圓六十錢と認印一個在中の折カバン一個を何れも遺失屆出

●**官給木材を盜取**　大分縣北海部郡大在村字志村當時永樂町一丁目大工職增田市次(三七)が農商工部新築工事を請負ひたるを旭町一丁目藤田菊太郎なる者下請して該工事に從事中營林廠の印ある官給木材百七十三圓餘の價格に相當するを竊取したる事南部署村上佐藤川副の三刑事探知し司法主任に引致目下取調中

●**惡い事は出來ぬ**　十六日午後四時二十分頃電車運轉手裵應奎なる者御成町吉野湯前にて折鞄拾得南部署に屆出に依り取調しに御成町三十三番戶大連宏濟彩票會計より彩票當籤者龍山新町二丁目田尻政男宛に振出したる金九百圓の約束手形及契約證類在に付富籤に關する犯罪ある見込にて目下取調中なりと

●**閘平船の轉覆**　中淸道崔一保所有の閘平船一隻薪千三百把豆八石を積載したる儘一昨日午前十一時頃月尾島を去る約五百米突の沖合にて轉覆せり損害金約六十圓其他人畜には異狀なし

●**敷嶋便り**　十六日敷嶋の定期檢梅は旅行中が二名自宅休業三名歸國二名受驗者四十七八なりしが何れも無事▲尚同夜の遊客數は三十一人にて百五圓廿九錢

日こ日　（十八日）

▲**浪花館**　初日より大人氣なる浪花節京山北星一座の十九日演題は白石噺(虎奴)後藤又一郎(虎喜代)水戶黃門記(隅田)大久保藤の丸(小虎丸)石山軍記(虎丸)義士銘々傳左り甚五郎(京山北星)なり

●**有明樓の大勉强**　寒い晚の丁字風呂れつと差し向いの酒機嫌うまい料理と親切な待遇に粹不粹の隔てなき評判の會席料理店壽町二丁目の有明樓は新築のれ座敷にて益々丁寧に安價を旨となす由なり

日曜集會　（十八日）

●メソジスト教會(旭町二丁目)　午前九時より日曜學校禮拜說教同十時より木原牧師『聖徒に對する天父の心』午後七時より同牧師の傳道說教あり
●同上龍山講義所(井出商會隣)　午後二時より日曜學校同七時半より山口照平氏の（キリスト降誕までの神の御準備）及び傳道說教あり
●京城基督教會(日之出町)　午前十時より禮拜說教及び米澤牧師の『信仰の態度』午後七時より神戶基督教會渡瀨牧師の『靈的生命の發展』演說あり
●京城日本基督教會(旭町四丁目)　午前十時より大谷牧師の『開かれたる窓』午後七時よりコルテス氏の『精神的の自由』說教あり

●**新年休養會の延期**　本社は來春早々温陽温泉に於て新年休養會なるものを主催する計劃にて既に連日の紙上に亘り其趣旨を揭載し來りしが多數**贊成の各位**より、時宛も**民團議員選擧**の期に際せるを以て其**終了**まで**延期**されん事を**申込**まれたるに依り本社また之に贊して延期する事を決し茲に一般各位に告ぐ

歌留多早取法(三)

▽巧手見る可らず

二、排列法

自分の方は自分の方が得だから自分の處が係う云ふ風な人が多い、せめて一枚でも打遣つて置いて人の札ばかり見てゐは敵は得たり賢しと盛んに襲擊して來る、來ても守備の方が零だから自分の處で防ぐ事が出來ない、せめて一枚でも相手の札を拔いて遣ろうと一處ばかり目を付けるやうになる、全で段違ひの勝負で恰かも取り的が關取にぶつ掛つてゐる樣で滑稽極まる、之れ等は全く自分の守備と云ふ事を度外してゐるからである、攻擊を得意とするものゝ守備を得意とするものとを戰はしめたならば其技倆が伯仲の間なら無論守備の方に團扇が上るとは斯道老成の士が喝破してゐる處である。だから此守備を堅固にしやうと思ふたなら先づ札の並べ方を一定の場所に定めなければならぬ、札の種類は皆なで二十七種類である。

あ 十七枚　い 三枚　つ 二枚
か 四枚　き 三枚　ゆ 二枚
た 六枚　し 二枚　お 七枚
な 七枚　ち 三枚　こ 六枚
は 四枚　ひ 三枚　よ 四枚
や 四枚　み 五枚　も 二枚
わ 七枚　う 二枚
むすめふさほせ 各一枚

そして之等の札を並べるのには成る可く上の句の頭字を揃へるして其頭字の類句を必ず集めて置く方が便利である譬へば

ありあけの　あらざらん
ありまやま　あらしふく
あさぼらけ　かぜそよぐ
あさぢうの　かぜをいたみ

と云ふ風に並べるのである、そして其並べ方は自分の記憶し易い樣或文句につゞりて並べた方が利益である、斯く一度並べ終つたならば讀方が何時讀み上げても直ぐ手が札の上に行く樣に練習をするのである。いざ戰爭となつた時自分の札を一巡も二巡も見渡してボンヤリ拾ひ取る樣では戰爭も何もあつたものでなく只敵の油斷で僥倖にも札を取られなんだと云ふ丈けで其間拔さ加減は見られたものではない。

今日の運勢

●十二月十九日舊十一月十七日九紫先負戊午破△一白●氣苦勞多き日なり起業開店賣買貸借旅行見合せたるべし色情の亂れを戒しむ△二黑●業務上進んで吉利得あり音信の間違と疾病衛生に注意すべし△三碧●近親知己のため損害出捐多し人に惑亂さるゝ勿れ賣買貸借尤も謹愼黙辯すべし△四綠●親族家族の事煩累多し旅行宴會子孫の事を擧ぐるに避くべし他は大凡吉△五黃●潤飾擴張新事旅行見合すべし其他進んで支障なし△六白●起業開店旅行共同組合連帶事見合すべし建築金屬の業に適す△七赤●旅行轉住新事婚姻に吉其他手控への事證券帳簿印章の故障を防ぐべし△八白●相談委囑熱談共同組合婚談に吉建築金屬の業に尤も好し△九紫●非運の日諸事手控への事新事旅行賣買貸借建築に尤も忌む(三・館)